

1 延命地蔵

所在地：本町2丁目

私が、10歳くらいの時に祖母によく連れられて来ていた場所があります。それは、旧鍛冶屋町の一角にあるお地蔵様です。

地蔵通り商店街の名前の由来になったこのお地蔵さまは延命地蔵と呼ばれ、「讃岐阿野郡坂出村に住んでいた信仰心厚き稻毛惣次郎という人が難病にかかり夢の中で火の玉と共に地蔵尊のお姿を拝するに到り文久元年（1861年）酉年5月23日当地に建立されたもので」以来地域の方々の手で守られてきました。隣には金比羅さんも祭られています。昨年は25年ぶりに護摩法要が行われました。

昔、ここには鉄棒があつて、私は逆上がりの練習をしていました。ここではできるのに、学校の鉄棒ではできなかつた記憶があります。（植原）

わがまちの
発見!
おすすめスポット



参考：延命地蔵内の石碑より

2 ナカンダ浜周辺

所在地：沙弥島

風光明媚な瀬戸内海と日本の橋100選の瀬戸大橋を望めるナカンダ浜は、過去と現代が融合した風景を楽しむことのできる名所です。瀬戸内国際芸術祭の総合ディレクターでもある北川フラム氏は、ナカンダ浜に額縁を設置するだけで素晴らしい作品になるとも評されました。

また、ナカンダ浜の下には弥生時代から古墳時代にかけての製塩土器が眠っており、歴史的にも興味深いところです。

瀬戸内国際芸術祭2022沙弥島会場ともなっており、多くの方がナカンダ浜を満喫されているでしょう。（若谷）



久しぶりに本棚に目をやると単行本に挟まれて所在なさげにしている文庫本に目が留まりました。「地名アイヌ語小辞典」（知里真志著・北海道出版企画センター）「ん…何！」20年ほど前の記憶がよみがえる。

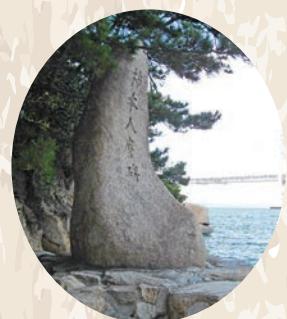
「オソゴエの浜！」皆さんよくご存じの柿本人麻呂と愛恋無限の碑がある浜です。「オソゴエって何？」誰も気にしていない。どこをどうたどったのか、誰かにご教授いただいたのか、今では定かではありませんが前述の本にたどり着きました。

【osor-kot オソルコッ（オショルコッ）】

「osorは『尻』、kotは「くぼみ」尻もちをついた跡のくぼみの意。各地にOsorkochiという地名があり、海岸の段丘に尻餅の形にくりぬいたような窪地にその名がついている。」（同書80ページから引用）

「Osorkochi」の正確な発音は分かりませんが、アイヌ語源の地名のそばには必ずと言っていいほど縄文遺跡があるそうです。

諸説の1つですが、悠久の歴史に思いを馳せながら瀬戸内国際芸術祭、春会場の沙弥島を散策、ナカンダ浜のフォトスポットで写真をパチリ。いかがでしょうか。（若杉）



編集後記

「駕籠(かご)に乗る人担ぐ人そのまた草鞋(わらじ)を作る人」という言葉があります。「様々な人々がそれぞれの立場で社会を支えていく。だから普通の生活ができる。だからこそ感謝の気持ちを忘れてはならない。」と私は解釈しています。

今、コロナ禍によって「普通の生活」ができなくなっています。医療関係者の皆様をはじめ、エッセンシャルワーカーの皆様のご苦労に心から感謝します。

3月定例会では坂出の皆様が、「普通の生活・将来の展望が開ける生活」を送れるよう、令和4年度予算案を審議しました。紙面にその一端を掲載しましたので、ぜひご一読ください。（若杉）

広報広聴委員会 委員長……植原 泰 副委員長……丸岡豊和
委員……山条真嗣 脇 芳美 東原 章
鳥飼年幸 若谷修治 若杉輝久

次回開催は…
5月臨時会を5月中旬に、
6月定例会を6月中旬に、
開催予定です。

